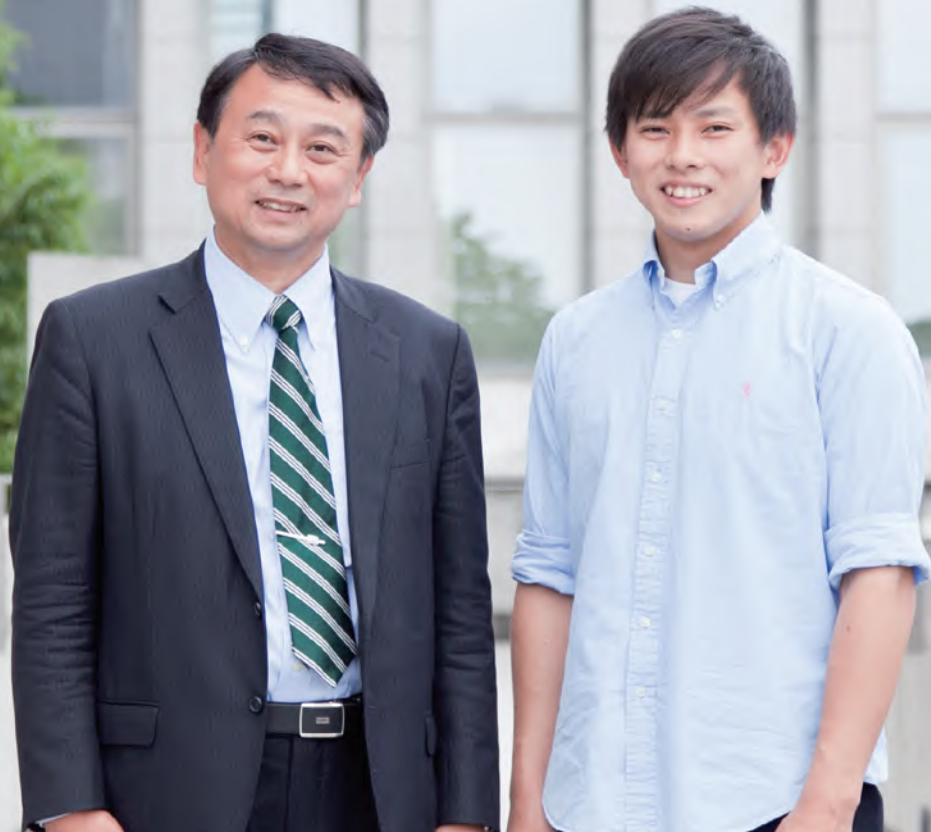


父 <sup>ふたかみあきひさ</sup> 二上明久 S59経営学部経営学科卒  
千葉県千葉市在住。横浜倉庫株式会社で通  
関士として勤務。学生時代はプロレス研究  
会に所属。今年度、千葉東支部の支部長を  
務める。

息子 <sup>ふたかみひでひさ</sup> 二上英久 文学部環境地理学科3年  
二人兄弟の次男。自宅から通学。中高とレス  
リングに打ち込みインターハイ出場。大学で  
は中南米研究同好会、アクションサークル  
SAC、体育会居合道部に所属。

# 二上家の人々



生田キャンパス 10号館と9号館をつなぐ通路にて

父は専大で過ごした学生時代、仲間と立ち上げたプロレス研究会でプロレスショーに熱中した。あれから三十数年、今は息子が専大で学び、アクションサークルでヒーローショーを演じている。父と息子が歩む道、時代は違えどなんか似ている。さて、詳しくお話を聞いてみましょう。

## 同じ校歌を歌う喜び

——息子さんが同じ専大に入学されて、お父様としてはいかがでしょう。

**父**：やっぱり嬉しいですよ。女房と2人の息子は地元の同じ小学校に通ったので同じ校歌を歌っています。私は子供と同じ校歌を歌うことはないだろうと思っていたから、最後の最後、大学で同じ校歌を歌うことになって、素直に嬉しいですよね。

——息子さんはどうして専大に。

**息子**：父の通ってた大学もいいなと思って受験しました。学部はどこがいいかわからなかったので、父と相談して文学部環境地理学科が面白そうだと選びました。

**父**：私は経営学部で学びましたが卒業後、博物館などに出かけるのが好きになって、自分が学

んだらおもしろそうだなという視点で息子に勧めました。

**息子**：経営学は勧めなかったね（笑）。お陰で環境地理学を楽しく学んでいます。巡検（実地調査）に行ったとき、授業で習った地層などを実際に目にすると面白いと感じます。

## 父の大学時代はプロレス一色

——お父さんからは学生時代の話をお願いしますか。

**息子**：父から聞くのは、プロレス研究会の話ばかり。

**父**：当時、プロレスがすごいブームで、たまたま同じ学部の友達5、6人でプロレス研究会を立ち上げたら、意外や意外、たくさん集まって30人くらいの規模になりました。同じようなサークルが、法政、早稲田、明治とか、ほかの大学にも自然発生的に出てきて、大き



↑ 昨年の千葉東支部懇談会で、中南米研究同好会のメンバーと共に演奏する英久さん（中央）

↑ ヒーローショーを行うアクションサークル SAC。左から2人目が英久さん

← 学生時代の明久さん（左）。『週刊少年ジャンプ』のイベントでキン肉マンショーを行った。右はゲストのジャンボ鶴田さん



→ 今年のGWに父子でローマ旅行

なイベントでは協力しました。鳳祭では第一体育館の会場が満員になって、入れないお客さんが怒って看板を壊したりもして。ブームってのは、そういうもんだな～（笑）。

——息子さんは複数のサークルに入っていますね。

**息子：**アンデスの民族音楽を演奏する中南米研究同好会と、ヒーローショーをする SAC（専修大学アクションサークル）。それと最近、ヒーローショーの殺陣のために刀の振り方をきちんと習いたいと思って居合道部にも入りました。

## 仲よくしているとメリットがある

——GWはお二人でローマに旅行されたとか。一緒に行動することも多いのですね。

**息子：**周りには親とよくけんかするなんて人もいますが、うちの場合は、旅行や博物館にも連れていってくれるし、ご飯もおごってくれるので、仲よく一緒にいるとメリットがある（笑）。ローマ旅行では、子供の頃に観た母の好きな映画「ローマの休日」の舞台を実際に見て感動しました。

**父：**博物館などには、よく一緒に出かけますね。子供のうちに見せておかないと興味が湧かないんじゃないと思って、小さい頃からよく連れていきました。

**息子：**子どもの頃、博物館で見たナウマンゾウの骨格標本などが、その後読んだ本に出てきたり、逆に教科書で見た運慶と快慶の作品の実物を見たり、そういうのが面白いと思いました。

## 普通にやっていたら、人生いいもんだ

——専修大学で得たものは何でしょう。

**父：**大学は全国から人が集まりますから、そういう出会いは大学ならではの気がします。大学の友人とは、いまでも付き合いが続いています。

**息子：**とりあえず知らない人でも話しかけるようになったのが大学での成長だと思います。それまで中高一貫校で、中学校からの友達とばかり付き合っていたので、大学ではまったく新しい環境で積極的に話しかけるようになりました。

——お互いにメッセージをお願いします。

**父：**私がそうだけど、その日その日を一生懸命やっていたら、そんなに悪い人生にならないから。GWにローマに行けるくらいの余裕もできる（笑）。普通にしていれば、案外人生って面白いよってことを伝えたい。

**息子：**これまでも父に言われたことは結構忠実にやってきて、そんなにとんでもないこともやらかしてない。これからも言われたとおりに頑張っていきます（笑）。普通を目指しつつ、ちょっと努力を上乘せして、平均プラス5点くらいを狙いたいです。

——お父様は現在、千葉東支部の支部長を務めていますね。

**父：**卒業生でもあるので、私がやらなきゃしょうがないと。誰に頼まれたわけでもなく、「やります」と手を挙げました。卒業して、長いことキャンパスを訪れることはなかったけど、またこうしてかかわれるのは嬉しいですね。